

令和 8 年熊本地震災害派遣薬剤師活動報告 No.7

令和 8 年 8 月 7 日

- 【派遣日程】 8 月 4 日（火）～8 月 7 日（金）
- 【報告者】 大石 博美
- 【メンバー】 2 班：宮谷英記、江川孝、大石博美
- 【派遣先】 八代トヨオカ地建アリーナ
- 【交通状況】 Google のナビで迂回路を選択し、1 時間半程度で現着  
途中裏道は狭路の離合が多少あり  
道路状況も日々よくなっている
- 【ライフライン】 電気：○ ガス：△ 水道：○  
その他：良好  
※MP の外部電源喪失案件あり、冷房と分包機が電源喪失  
→原因は施設のブレーカーが落ちていた  
→施設内での湯沸かしポット等の使用が原因の可能性有  
→冷房は必要なため使用、分包機を使用する業務はほとんどないため  
分包機は OFF にしておく（分包機使用時は冷房切ったほうがよいと思われる）
- 【活動内容】 6:30 ホテル出発  
8:20 派遣先到着、支援開始  
9 時台 災害処方箋 1 件 相談 2 件  
10:00 避難所支援者会議に参加 江川  
医療・薬剤 一部負担金猶予：  
災害救助法適用期間（11 月まで）、医療機関や薬局での窓口支払いが  
猶予される旨の通知（案内要約を掲示）  
薬局稼働・処方：被災 2 店舗を除く約 97～98%が稼働中  
連絡先不明時はモバイルファーマシーへ問い合わせる  
救護所診察時間：夕方の診察時間を「15 時開始・19 時終了」に変更  
10 時台 災害処方箋 2 件 相談 2 件  
11 時台 災害処方箋 1 件 相談 4 件  
11:45 域の医療機関の大部分が復旧し稼働している状況のためできる  
だけ災害処方箋を出さない方向性を共有  
12:15 D-WAT より

Q:避難所を回っていると常用薬がなく、移動もできなくて困っているという避難者が増えてきているがどうしたらいいか？

A:地域の医療インフラが概ね復旧しているので、地域の保険診療で対応してもらう方向性  
災害時の Do 処方対応や負担金の減免についても整備されている  
医療機関へのアクセスが難しい場合は、お薬手帳などで確認して  
かかりつけ薬局にコンタクトを取り対応の相談をすることを強く  
推奨

13:00 八代調整本部会議（八代市保健所）に参加 江川・吉野

病院はほぼ診療中、薬局は 2 件のみ閉局

災害処方箋ではなくそれに代わる、地元医療機関への紹介メモを出  
してもらう、お知らせを保健所長名での発出を依頼

15:00 第 2 班 撤収

18:30 福岡県薬剤師会会館到着

【現地状況】 食料等調達可能、ホテル隣のコンビニは支援者が多く滞在していることもあり  
食料は品薄傾向、少し離れたコンビニは充実

---

【派遣日程】 8 月 7 日（金）～8 月 10 日（月）

【報告者】 田中 聖

【メンバー】 3 班：吉野禎治、田中聖、島田良知

【派遣先】 八代トヨオカ地建アリーナ

【交通状況】 時間帯が良かったのか、前情報よりスムーズ現地入りできた  
道路状況も日々よくなっている様子

【ライフライン】 電気：○ ガス：△ 水道：○  
その他：状況を維持

【活動内容】 9:30 福岡県薬剤師会を出発

13:00 山口常務・江川理事は調整会議に参加

13:00 八代調整本部会議（八代市保健所）に参加 江川・吉野

【要約】

発災から約 10 日が経過し、急性期対応から「地域の通常医療へ戻して  
いく段階」に移りつつある。一方で、断水、感染症、避難所環境、  
医療・介護人材不足は継続しており、お盆前が一つの山場との認識

主な共有事項：

- ・避難所、在宅被災者への健康調査は継続。八代市・氷川町とも訪問を強化中
- ・複数支援団体による重複スクリーニングが、地元医療者の負担になっており、情報の一元化が課題
- ・お盆期間の診療体制を調査中。特に眼科・耳鼻科など専門診療が脆弱
- ・コロナ陽性者の避難所復帰は一律ではなく、各避難所の隔離環境等に応じて個別判断が必要
- ・病院、高齢者施設とも人員不足が続いており、支援ナース等の調整を継続

【薬剤師会として重要な点】

最も大きなテーマは、「災害医療から地域の通常医療・通常調剤へ戻していくこと」

診療所・薬局が再開している中でも災害処方箋が発行されており、地域薬局の負担となっていることが問題提起された

災害処方箋はあくまで一時的な対応とし、原則として

「地域の診療所 → 地域薬局」へつなぐことを支援チームへ周知していく必要

併せて、開局薬局、お盆期間の開局状況の共有、不足医薬品の情報集約と卸等との調整、薬局への重複調査を避ける情報集約が必要

今後は「薬を供給する支援」から、「地域の医療・薬局機能を正常化する支援」へフェーズを移していくことが重要と感じた。

13:00 派遣先到着 田中・島田 2班からの引継ぎ

14:00 環境衛生検査 島田・田中

場所：八代トヨオカ地建アリーナ避難所エリア

検査日時：8月7日 14:00

温度：28.2℃

湿度：55.9%

WBGT：24.1

二酸化炭素濃度：900ppm

水道水塩素濃度（トイレ内）0.05%

PH：7.5

飲料水はペットボトル等使用

管理良好、異常なし

場所：八代トヨオカ地建アリーナ避難所ペット帯同者エリア

検査日時：8月7日 14:30

温度：30.9℃

湿度：50.4%

WBGT：25.8

二酸化炭素濃度：700ppm

水道水塩素濃度（トイレ内）0.1%

PH：7.5

飲料水はペットボトル等使用

トイレ等を含め、避難所の状態は管理良好

15時台 T MAT 成田薬剤師と直接情報共有

16:00 避難所支援者会議に参加（本日より17時から16時へ変更） 吉野

#### 【要約】

##### 1. 全体・本部からの共有

氷川町におけるボランティア受け入れについて共有があり、  
今後の受け入れ体制を整えていく方向

感染症発生時の隔離については、避難所ごとに設備・環境が異なるため、完全な隔離が困難な場合も想定した対応が必要

医療・薬剤関係については、災害処方箋等を含めた情報を整理し、  
必要な支援・窓口へ適切につないでいく方向性が共有された。

眼科等の専門診療については、周辺で診療可能な医療機関が少なく、専門科へのアクセスが十分ではない状況

##### 2. 避難所・アリーナの状況

退所する避難者が増える一方、新たに入所する方もおり、避難者数は流動的

状況を確認しながらアリーナ内の配置を調整している

個別支援が必要と思われるケースについては、家族関係や生活状況を確認しながら対応

保護者が不在となっている時間帯の子どもについても状況確認を行い、必要に応じて相談・支援につなげる

扉の固定など、避難所内の安全面で改善が必要な箇所について対応を検討

ラジオ体操等は人手が不足しており、手が空いているスタッフへ積極的な参加を依頼

今後、地域で継続できる活動として定着を目指す

##### 3. 医療・生活支援

入浴支援を継続し、必要な方への調整や衣類等の対応を実施  
医療機関への受診が必要な避難者については、送迎を含め個別  
に対応。症状に応じて診察を行い、必要時には眼科等の専門医療  
へつないでいる

巡回診療では、女性のプライバシーなど避難生活特有の課題に  
も配慮しながら支援を行う

#### 4. 食事・物資

食事内容が偏らないよう、提供内容を記録・共有し、担当者間で  
ローテーションしながら調整

周辺店舗も営業を再開していることから、不足している食品・物  
資等を掲示するなど、地域からの支援につなげる方法も検討す  
る

本部から届いた物資については、避難所内に限らず、必要に応じ  
て地域の方への配布も行う

#### 5. 応援スタッフ・今後の体制

長崎県から10名の応援スタッフが入り、11日まで活動予定  
同じスタッフが一定期間継続して関わることで、引き継ぎに要  
する時間を減らし、活動の継続性・効率性を高めていく。  
各支援チームが個別に動くのではなく、現地スタッフと連携し  
ながら活動する

#### 6. 明日の予定・薬局関係

明日も活動を継続。アリーナミーティングは10:00～予定  
土日の医療・薬局体制について事前確認が必要。特に日曜日は  
周辺薬局の多くが休業している可能性があるため、開局薬局・対  
応可能薬局をあらかじめ把握しておくことが課題

→ 薬剤師班としては、土日の開局薬局・処方対応体制を確認し、  
必要時に速やかに案内できる状態にしておく

15:00 熊本県薬剤師会へ移動

19:00 熊本県薬剤師会災害対策本部会議に参加 全員

本田あきこ参議院議員も会議へ参加

19:00 会議終了

本日の災害処方箋6枚 相談0件

【現地状況】 現地付近のコンビニも再開するところが増えている  
それに伴い、物品の調達はしやすくなっている